

Sustainability Report 2025

株式会社レゾナック・セラミックス

RESONAC
Chemistry for Change

RESONAC

株式会社レゾナック・セラミックス

本レポートの内容に関するお問い合わせは以下へお願いします。

〔富山工場 CSR部〕

〒931-8577富山県富山市西宮町3-1
TEL:076-437-9201 FAX:076-437-6600

ホームページはこちらから
<https://www.rce.resonac.com>



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォントを
採用しています。



ミックス
責任ある木質資源を
使用した紙
FSC® C020174



私たちレゾナック・セラミックスは、経済的・環境的に持続可能なビジネスモデルの構築に取り組んでいます。サステナビリティレポートの発行は、こうした取り組みの内容や成果をステークホルダーの皆様と共有するための、重要な手段のひとつと位置づけています。

「RESONAC」の名にも含まれるREは様々な意味を持っており、その中に「再び」「繰り返す」といったものがあります。持続可能な未来を目指すレゾナック・セラミックスが、毎年継続的に発行している本レポートの顔となるにふさわしい、象徴的な言葉であるとの想いを込め、表紙デザインのモチーフとして採用しています。



パーサス／存在意義

化学の力で 社会を変える

Chemistry for Change

先端材料パートナーとして時代が求める機能を創出し、
グローバル社会の持続可能な発展に貢献する

バリュー／私たちが大切にする価値観

プロフェッショナルとしての成果へのこだわり

仕事に情熱と誇りを持つ実力主義、成果にこだわる結果、
グローバルで認められる一流としての実力を持つ

機敏さと柔軟性

挑戦を称賛し失敗に寛容になる思考と行動に柔軟性とスピードを持つ結果、
組織としての基本速度をあげる

枠を超えるオープンマインド

互いへの信頼と尊重を示すオープンに、領域を定めず関わりあう結果、
内外のステークホルダーとの共創を実現する

未来への先見性と高い倫理観

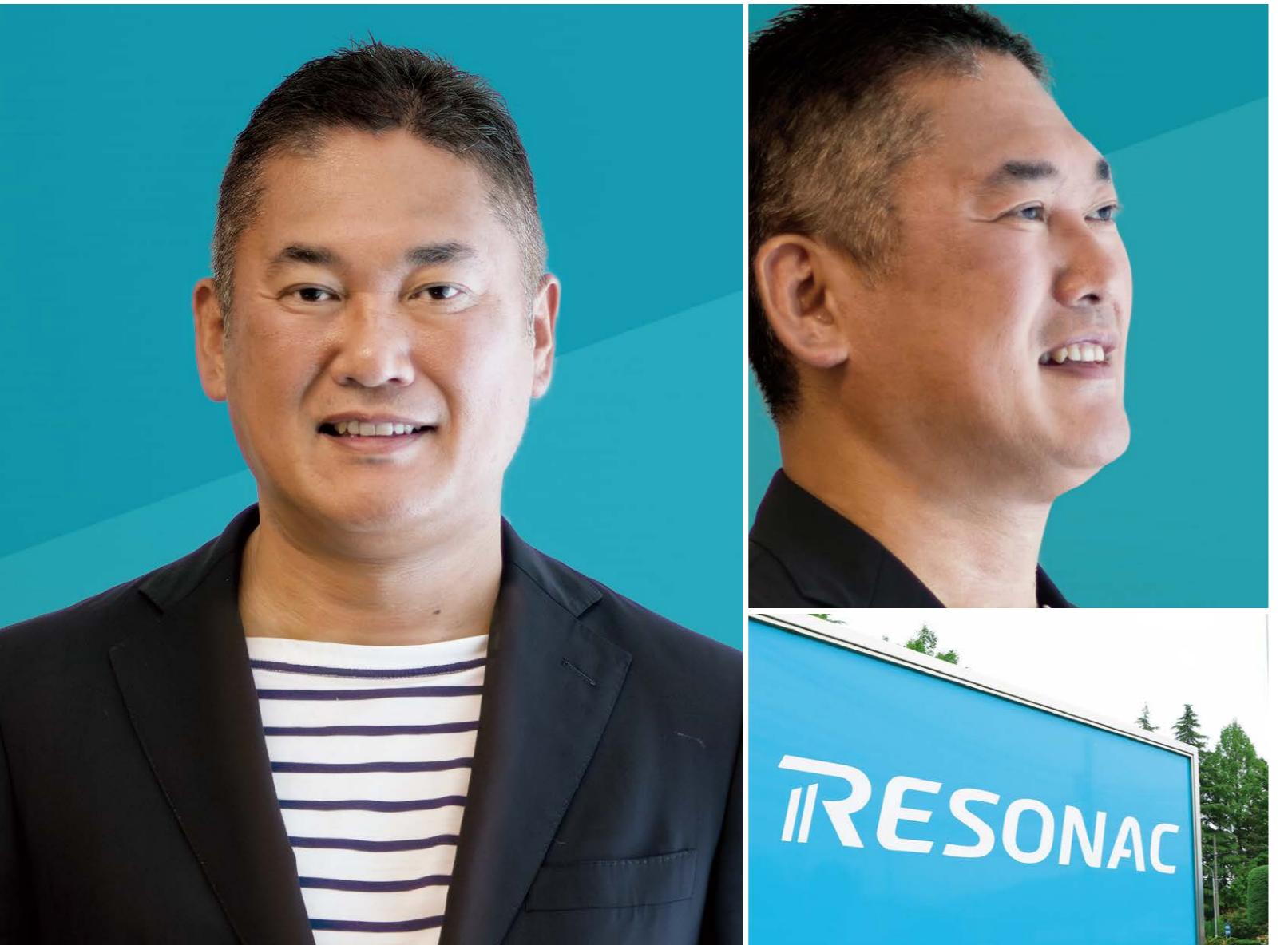
化学と真摯に向き合う数世代先の未来を見通す先見性を持つ化学技術への
自律した倫理観と全てのステークホルダーに対する誠実さを持つ

Contents

経営理念	01	労働慣行	17
トップメッセージ・会社概要・沿革・編集方針	03	公正な事業慣行・消費者課題	21
サステナビリティビジョン2030	05	環境	23
快適な暮らしを支える「素材」	07	環境データ	25
特集・座談会 働きがいのある職場づくりのために	09	コミュニティへの参画および コミュニティの発展	27
組織統治	13	未来への取り組み	29
人権	15		

TOP MESSAGE

トップメッセージ



ともに考え、ともに動く。
共創と革新で持続可能な未来を
切り拓くレゾナックグループ。

(株)レゾナック・セラミックスのサステナビリティレポートをご覧いただき、誠にありがとうございます。

私たちレゾナックグループは、「化学の力で社会を変える」という共通のパーソナリティのもと、持続可能な社会の構築に貢献するため、事業活動を通じて環境・社会に配慮した取り組みを積極的に進めてまいりました。当社グループが提供する製品やサービスは、世界中の多くのお客様の暮らしを豊かにするだけでなく、地球環境問題や社会的課題の解決にも寄与できるものであります。

グローバル規模での気候変動や資源の枯渇をはじめとする環境問題、そして個別地域での社会的課題の解決に向け、企業として果たすべき責任はますます重要になっています。これらの課題に対し、レゾナックグループとしては自社のGHG排出量を削減することはもちろんのこと、バリューチェーン全体で排出量を削減するため、お客様や仕入れ先様と共に創してまいります。またTNFD(自然関連財務情報開示タスクフォース)に賛同し、企業活動によって自然資本に与える影響を把握・維持・改善に取り組んでいます。

2024年度のサステナビリティレポートでは、私たちの様々な取り組みの実績と進捗状況、環境負荷軽減や人権・ダイバーシティの推進に向けた目標、そして安全活動を含めた未来志向のロードマップを詳細にお伝えしています。これらの活動は、単なる事業戦略に止まらず、グローバル市民としての私たち

自身の使命もあります。

ただし、ステークホルダーの皆様との一丸となったコミットメントがなければ、こうした取り組みは実現しません。多様性を尊重し、イノベーションを加速する職場環境の整備を行い、従業員一人ひとりが持つ力を最大限に引き出せる企業文化を育む。このことも私たちが目指す目標の一つです。

私たちはこの道のりが決して容易ではないことを認識しています。しかし、長期的な視点と誠実な行動を持続することで、ステークホルダーの皆様との信頼関係を築き、価値創造を継続していくことが可能だと信じています。皆様からの貴重なご意見やご支援が私たちのさらなる飛躍の礎となることは間違いないありません。

最後に、レゾナックグループの使命は単なる経済的利益の追求だけでなく、より良い未来を築くための手段を提供することと考えています。このサステナビリティレポートが、私たちのビジョンと行動への理解を深めるきっかけとなれば幸いです。

皆様には私たちとともに、持続可能な未来の実現に向けて歩んでいきたいと考えております。当社の活動にご理解をいただきとともに、皆様からの忌憚のないご意見やご指導をいただければ幸いです。宜しくお願い申し上げます。

代表取締役社長 高橋 直也



Sustainability Report

■サステナビリティレポートの報告対象範囲

株式会社レゾナック・セラミックス 塩尻工場・富山工場・横浜工場を対象としています。2024年の1月~12月の情報に2025年の情報を加えています。環境データの一部は2024年4月~2025年3月のものです。

■編集方針

本レポートは、組織の社会的責任に関する国際的な規格であるISO26000に沿って構成され、組織が社会的責任を理解し、実践するための包括的なガイドラインを提供することで、持続可能な社会の実現に貢献することを念頭に製作しております。

本レポートでは、素材メーカーである当社がどのように社会と繋がり、サステナビリティをどう捉え、そしてどのように活動を進めているのか様々な事例を通して紹介させていただきますが、ステークホルダーである皆様の理解が少しでも深まれば幸いです。

当社はステークホルダーとの対話を重視し、工場見学をはじめとした開かれた組織を目指し、多くの皆様へ活動を理解いただく機会を設け、広くご意見を賜り企業活動へ反映することで、これからも組織と社会のより良い関係を構築してゆく次第です。忌憚のない意見をぜひお聞かせください。

■会社概要

株式会社レゾナック・セラミックス (株式会社レゾナックの100%子会社)

- ・社長 高橋 直也
- ・従業員 339名 (2024年1月現在)
- ・設立 1985年11月
- ・事業内容 研削材、耐火材、超高压製品、フィラー材、酸化チタン、ガラス用鏡面研磨材の製造
- ・資本金 460百万円

- ・拠点
 - 本社・塩尻工場 所在地／長野県塩尻市大字宗賀1
敷地面積／300,000m²
従業員数／139名 (2024年1月現在)
 - 富山工場 所在地／富山県富山市西宮町3-1
敷地面積／210,000m²
従業員数／139名 (2024年1月現在)
 - 横浜工場 所在地／神奈川県横浜市神奈川区恵比須町8
敷地面積／約140,000m²
従業員数／57名 (2025年1月現在)

株式会社レゾナック

- ・社長 高橋 秀仁
- ・設立 1962年10月
- ・資本金 182億(2024年12月現在)
- ・従業員 連結23,936人(2024年12月現在)
- ・本社所在地 東京都港区東新橋1-9-1
東京汐留ビルディング
- ・事業内容 半導体前工程材料、半導体後工程材料、ハードディスク、SiC、自動車部品、アルミニ機能部材、基礎化学品、黒鉛電極、リチウムイオン電池材料、機能性化学品、樹脂材料、コーティング材料、セラミックス

■沿革【塩尻・富山・横浜】

- 1932年 日本沃土株式会社塩尻工場を設立
炭化ケイ素生産開始 ●
- 1933年 日本アルミニウム工業所を設立 アルミニウム生産開始 ●
- 1939年 昭和電工株式会社設立 ●
- 1943年 昭和電工株式会社 富山工場設立
- 1950年 赤松発電所竣工 ●
- 1959年 高炭素フェロクローム生産開始 ●
- 1969年 高炭素フェロニッケル生産開始 ●
- 1978年 立方晶窒化ホウ素低粒(SBN)生産開始 ●
- 1979年 富山昭和電工株式会社に社名変更 ●
- 1982年 高純度アルミニウム(UA)生産開始 ●
- 1983年 溶融シリカ、スピンドルチタン生産開始 ●
- 1985年 富山昭和株式会社に社名変更 ●
立方晶窒化ホウ素焼結体(SBN K-TIP)生産開始 ●
- 1987年 アルミニナバーツ生産開始 ●
- 1988年 昭和タイタニウム株式会社に社名変更 ●
高純度酸化チタン生産開始 ●
- 1990年 丸み状アルミニウム(AS)生産開始 ●
- 1994年 空気分離装置の受託生産開始 ●
- 2003年 中国連雲港昭義磨料有限公司設立
- 2014年 昭和電工セラミックス株式会社設立 ●
東北金属化学株式会社を吸収合併
- 2015年 昭和電工セラミックス株式会社 横浜工場設立 ●
- 2023年 株式会社 レゾナック・セラミックスに社名変更

SUSTAINABILITY VISION 2030

サステナビリティビジョン2030

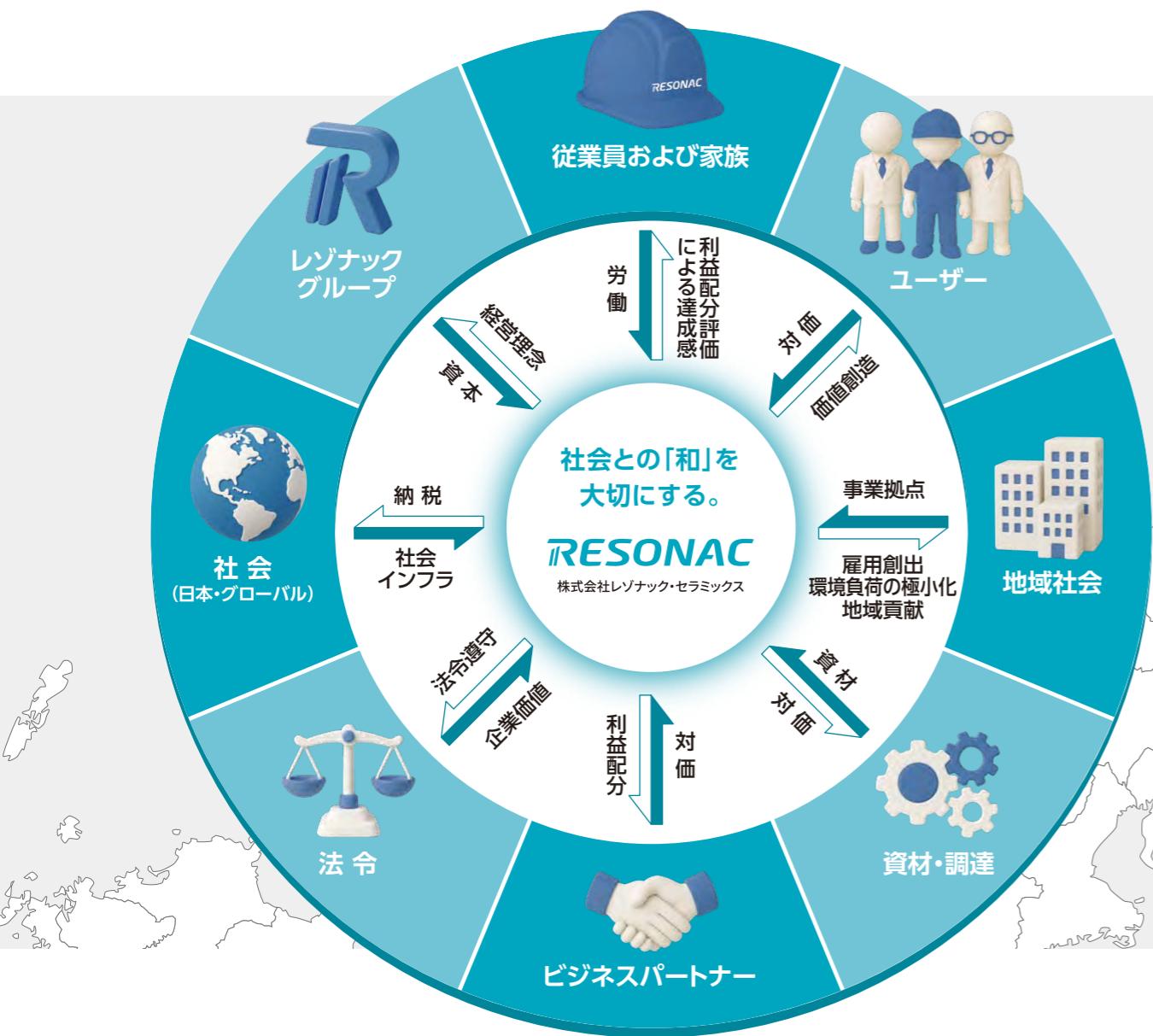
サステナビリティビジョン2030とは

社会課題解決による企業成長

技術や事業を通じて社会の課題を解決し、社会に
価値提供をすることで、自らの持続的な成長と企業
価値の向上を実現していく

世界で仲間をつくる会社

顧客、従業員、投資家およびステークホルダーなどの将来世代
を含む持続可能なよりよい社会づくりのパートナーから、「選ばれ
かつパートナーに「選ぶ」ことができる共創型化学会社になる



豊かな自然環境との相応が求められる地に拠点を構え、
事業の展開を図っています。

当社はレゾナックグループが掲げるサステナビリティビジョン2030のもと、従業員一人ひとりがサステナビリティ活動を進めています。特に工場の近隣地区の皆様や近隣企業との相互理解を深めるため、工場見学会の開催、意見交換、情報交換、地域行事への参加など積極的な取り組みを通して皆様と交流を図り、社会、地域の持続的発展に貢献していきます。

塩尻工場



塩尻工場は長野県中部にある塩尻市に位置し、360度山に囲まれた地方都市です。近隣には、松本城、上高地、諏訪湖と観光スポットが多く年間を通して全国各地から多くの観光客で賑わっています。工場がある塩尻市には日本の情緒を色濃く残す中山道の宿場町や国史跡の平出遺跡があり、ぶどう、高原レタスの生産が盛んで、世界的なワインの銘醸地として知られています。

富山工場



富山工場は、2025年The New York Timesの「今行くべき世界の旅行先」30位に選ばれた富山市を流れる神通川河口域に位置し、一方を日本アルプス、もう一方を日本海に囲まれ四季折々を通してその絶景を臨むことが出来ます。富山湾で獲れる海の幸、立山連峰の雪解け水を利用した日本酒など美味しいものと自然に恵まれた富山平野が自慢です。

横浜工場



横浜工場は横浜港に面し、自然・ビジネス・教育機関が集まる利便性の高い地域に立地しています。日本屈指の観光地、みなとみらいや中華街へのアクセスも良好です。2027年には横浜市で「GREEN×EXPO 2027(国際園芸博覧会)」が開催され、地域全体がSDGsを意識した取り組みを進める必要性が高まっています。地域との連携を強化し、持続可能な社会の構築に寄与する役割が期待されています。

RESONAC MATERIALS

快適な暮らしを支える「素材」

当社製品の多くは、様々な製品の素材・部材として使われています。

直接皆様の目に触れる機会の少ないものですが、

社会の発展、皆様の暮らし・生活を便利にするために欠かせない役割を担っています。

また、私たちはSDGsがめざす持続可能な社会の実現に向け、

製品・技術・サービスを提供しています。

SHOROX®

酸化セリウムを主成分とした鏡面研磨材です。液晶ガラスや光学ガラス、ハードディスク用ガラス基板など高精度な仕上げ面が要求される工程で使用されています。



こんなところに使われています

- カメラやセンサーなどの光学レンズの最終研磨



ショウビーエヌ® UHP

高い熱伝導性、化学的安定性を兼ね備えたユニークな材料として、潤滑・離型材、各種セラミックス原料、放熱フィラーなど、様々な分野で使用されています。



こんなところに使われています

- 高絶縁性の放熱部材



丸み状アルミナ ASシリーズ

結晶の角が少ない単粒状のコランダムです。粒子径が大きく、プロードな粒度分布を有するため樹脂への充填性に優れ、粘度が低く流動性に優れたコンパウンドを得ることができます。



こんなところに使われています

- 放熱シート
- 熱伝導性接着剤、ポッティング材



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGs(持続可能な開発目標)達成への取り組み

2015年9月に開催された「国連持続可能な開発サミット」で150を超える加盟国首脳の参加のもと、その成果として「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。このアジェンダで2030年までに達成すべき目標として掲げられたのが、17のゴールと169のターゲットからなる「持続可能な開発目標(SDGs)」です。SDGsは官民共通の目標として課題解決を求められていることが特徴です。レゾナック・セラミックスは、事業を通じて持続可能な社会の実現に貢献していきます。

SBN K-TIP® (エスピーエヌKチップ)

自動車部品をはじめとする鉄系材料の切削加工用素材として広く利用されている他、難削材の加工にも使用されています。



こんなところに使われています

- 自動車部品の切削用の刃先



アルナビーズ®CB

球状粒子で、粒度の組み合わせの豊富さから高い充填性能を有し、高純度で電気特性・耐湿性にも優れているため、放熱材やフィラー／增量材・特殊プラスチックとして広く使用されています。



こんなところに使われています

- 放熱シート
- 熱伝導性接着剤、グリース材、ポッティング材
- プラスチック



スーパー タイタニア®(酸化チタン)

超微粒でありながら分散に優れた高純度酸化チタンです。通信の高速化、および自動車の電動化などに伴う電子部品の小型・高機能化を素材から支えています。



こんなところに使われています

- 積層セラミックコンデンサ
- 触媒担体
- 樹脂添加材



ホワイト モランダム® WA

自動車や産業機械に使用される部品、部材などの研削・研磨のための研削砥石、切断砥石、研磨布紙(ベルト)などに使用されています。



こんなところに使われています

- 精密研削砥石
- 研磨布紙用
- 耐火用煉瓦





レーシング
シミュレーターが趣味。
先日24時間レースを
完走しました。



長く続けたアイスホッケーを卒業、
パレーボールを始めました。



愛車の
カスタマイズを
コツコツ進めています。
完成までもう一息!



富山工場
[SCM部 富山生産管理T]
竹田 欣五



富山工場
[第一製造課]
大原 智晴



塩尻工場
[DIDX部(総務G兼務)]
飯森 莉沙



塩尻工場
[第一製造課 精製]
滝沢 拓哉



横浜工場
[CSR部 品質保証G 横浜品質保証T]
吉澤 恵子



横浜工場
[製造課]
尾崎 史人



横浜工場
[CSR部]
矢田 輝明

特集／座談会
RESONAC CERAMICS | ROUNDTABLE DISCUSSION

働きがいのある職場づくりのために

レゾナックでは例年、「従業員エンゲージメント調査」を実施し、職場の課題の可視化と改善策の検討に取り組んでいます。

エンゲージメントを向上させ、働きがいのある職場をつくるために、私・私たちは何ができるのか、何をすべきなのか。各工場の代表6名が、本音とアイデアを交わしました。

エンゲージメントが高い職場と、働きがいのある職場の共通点は「人と人との関係性が良い」ことです。それぞれの持ち場で、どんなときに関係性の良さを感じますか。

私は製造を経てSCM部で勤務していますが、周囲との関わり方は両者でずいぶん違うと感じています。製造課時代は、他の人がどんな作業をしているのかが分かり、自分が代わって作業する、ということもできました。一方でSCM部ではそれぞれの“専門性”が壁になっています。

皆が周囲をよく見ている。
そこに社歴や年齢は関係ありません。

滝沢 私は竹田さんと逆でSCM部から製造に異動になりましたが、まったく同じことを感じています。SCMでは各人が専門性をもち、個人で仕事を完結させる事が多い印象でしたが、製造にはチームワークで物事を進める風土があります。製造に移って間もない頃、メンバー全員が集まって改善活動の資料を作成することに衝撃を受けました(笑)。

大原 私は製造課で主に事務の仕事をしていますが、皆が周囲をよく見ているな、という印象があります。「あの人ちょっと大変そうだな、忙しそうだな」と気づけばすぐに声をかけてフォローします。富山弁で「代わりにやつっちゃ」です(笑)。そこに社歴や年齢は関係ないですね。

飯森 モノの流れが分かりやすい現場作業と異なり、総務やDIDXの担当業務は他の方から見て仕事の状況や進捗が掴みにくいため「困ったな」というときは、自分からシグナルを出すことが大切です。助けを求めることで、上司や他のメンバーが臨機応変にフォローしてくれます。

吉澤 検査部門では各自が担当する装置、分析が決まっているので、“この人しかできない業務”というものがあります。自分の業務に誇りと責任感を持って取り組めるのは良いことなのですが、半面、「自分が休むと他の人が困るのでは」との思いから、皆がつい頑張り

周囲から見えにくい業務は、
自分からシグナルを出すことも大切。

過ぎてしまう傾向があります。優しい人、責任感がある人ばかりなんです。休みを取る側の心理的な負担を軽減できたら良いのですが…。

滝沢 そういう点では、私の職場では、仕事以外の面も含めてお互いの状況を理解できていることがよい方向に働いていると感じています。育児中で急な休みを取ることがある人も、趣味のスノボで遠出するのが冬の恒例行事だという人も、普段からコミュニケーションを取っていると、周囲の理解の中で心置きなく休めます。

竹田 安心して休める職場づくりもそうですし、業務を若手に任せることで、どう休むかは大事。業務の

主・副の関係性でいえば、主の責任感があり過ぎると、副の成長の機会を奪うことにもなりかねません。長い目で見れば、主が休んだほうが副のためになるんです。

吉澤 そうなんですね。実際のところ多能工化自体は進んでいるんです。だからこそ、個人の頑張りに任せるのではなく、より柔軟に役割を分担する仕組み・言い出しやすい雰囲気が作れれば良いなと思っています。

“この人しかできない業務”が生まれる
現状を変えていきたい。

09

10

ISO26000の
中核課題

未来への
取り組み

経営理念
会社概要・沿革・編集方針
トップメッセージ
サステナビリティ
ビジョン2030

快適な暮らしを
支える「素材」

特集

特集／座談会

RESONAC CERAMICS | ROUNDTABLE DISCUSSION

—— いろんな人が集まって関係性が多様化することは、個人の成長にも影響を及ぼすようですね。

飯森 私の“第一言語”は手話なのですが、今の職場は聴覚障がいへの理解があり、手話でコミュニケーションが取れる環境です。朝会ではいつも簡単な手話を紹介して、皆で会話しているんです。耳が不自由な私にとって安心して働く環境ですし、お互いに通じ合っている信頼感が生まれます。

尾崎 私の職場はこの10年間ほど新人が入ってきておらず、同じメンバーで仕事をしています。気心の知れた人ばかりで居心地はいいのですが、たとえば“教える・教えられる”という関係が生まれず、人間関係が固定することの弊害もあるように思います。

吉澤 新人を教える機会がないと、自分自身がレベルアップするチャンスも少なくなりますよね。



個別最適化された教育があれば、モチベーションアップにつながる。

尾崎

研修や講習の機会もありますが、残念ながら「自分の番が回ってきたから参加する」という捉え方になっています。そうではなく、個別に最適化された教育機会があってほしい。学んだことを仕事に活かし、それが評価に結びつけば、モチベーションも上がります。

飯森

教育研修についていえば、コンプライアンス研修など組織全体に関わることは、全員が参加しやすい環境に整えることで、エンゲージメントが高まるように思います。

尾崎

現場の従業員同士はよく喋り、よく笑い合いますが、上下の関係性は壁があるな…というのが正直なところです。横浜工場の大きな課題として、工場棟の跡地をどう活用していくかということがあるのですが、経営陣が今何を検討しているのか、今後どうしていくのかの説明が足りないように思います。

吉澤

私の職場は“横串組織”で、各部門の長は別の工場にいます。現場では今困っていることを誰に相談すればいいか分からず、混乱することが多々あります。そもそも、まずは今後のビジョンを経営陣に示してもらい、全員で共有することが大事なのかな。それによって会社に対する信頼感や貢献意識が変わってきます。

滝沢

横浜と塩尻は状況が違うこともありますが、私自身は「会社をこんなふうに変えていこう」「こういう目的を持って仕事をしよう」という経営陣からのメッセージは明確に伝わってきていると感じています。特にDIDX部が用意してくれた新しいツールを入れてやってみよう、というようなDX戦略の部分ですね。



DX戦略では、経営陣からのメッセージは明確に伝わってきています。

飯森

Workplaceを導入し、他部署の活動や取り組みがタイムリーに分かる環境が整ったということが大きいように思います。

竹田

各工場によって関係性づくりやエンゲージメントの課題も異なるようですね。「もっとこういう改善ができれば」と感じていることだったり、実際に改善に取り組んでいる事例はありますか。

竹田

富山工場はこの10年で従業員が急増しました。その分、部署が違う人とは顔を合わす機会が減り、部署をまたいだコミュニケーションは不足しているように感じています。これを解消しようと最近では部署や工場を挙げての交流の場が設けられて積極的に活用するようになりました。

大原

私の部署の場合、課長が雑談で場の雰囲気をほぐしてくれるで、話しやすい環境はあると思います。ただ、会議などのかしこまった場では「考えていることはあるけれど、口に出すのは苦手」という人が多いので、

なかなか意見が表に出できません。定期的に行っている職場安全会議では、言いたい人が手を挙げて発表するのではなく、各自の意見を求めるスタイルに変えて取り組んでいるところです。

尾崎

1on1の取り組みもありますが、ほとんど話す機会がない管理職と、個室で面と向かって「さあ何でも話してください」となっても、本音はなかなか言えないものですね(笑)。普段から雑談でもいいので何かコミュニケーションがあれば、1on1の場でも話しやすいのかな。

竹田

3つの工場が集まることで生まれているはずのシナジー効果が、あまり明確に見えていないのかなと感じています。会社を良くしていきたいという思いは皆同じ。その方向性をひとつにしていくための対話を、もっともっとしたいですね。

大原

1on1も定着はしてきていると思いますが、それ自体が目的ではありません。本当に意味のあるものにするには、私たちから意見やアイデアを積極的に伝えしていく努力をすることも大切だと思います。



皆の方向性をひとつにしていくための対話を、もっともっとしたい。

“場”を活用し、従業員が積極的に意見を発信することも大切





組織統治

法令を遵守することはもとより、
高い倫理観を持って行動します。

- 担当業務に関する法令・協定・会社の規程・規則や正しい手続きの仕方およびそれらの変化を理解し、遵守します。
- 国内外の法令を遵守し、世界人権宣言や様々な国連条約を尊重し行動します。
- ルール化されていないことであっても、誠実な言動を心がけ、社会の一員としてステークホルダーから信頼されるように行動します。

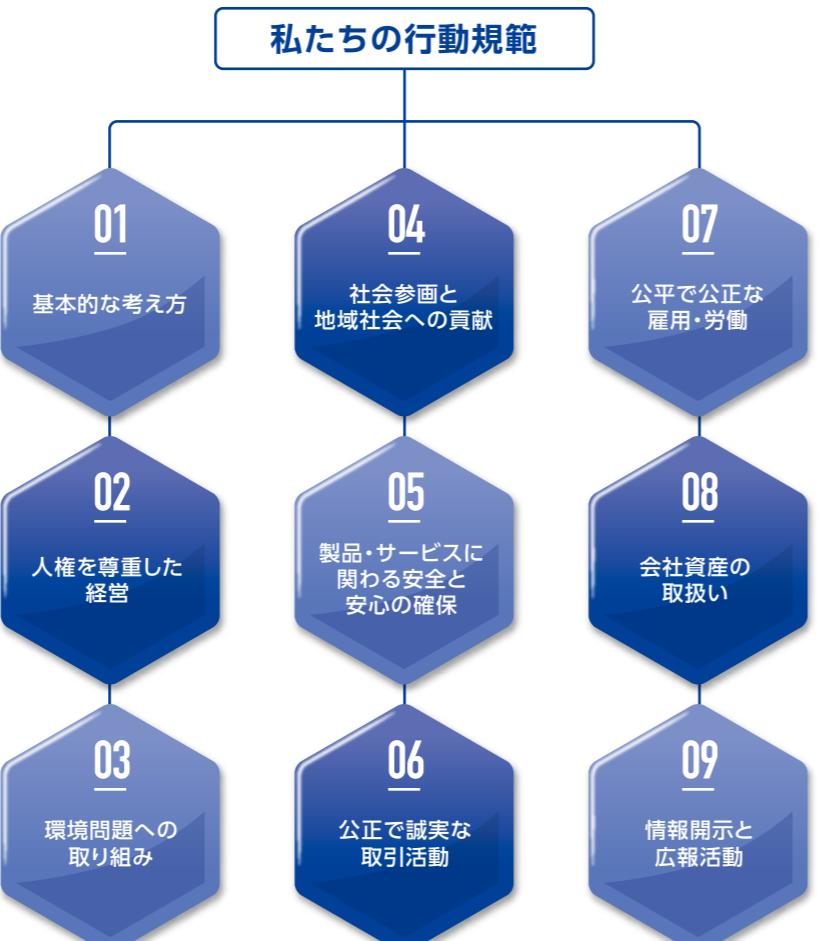


私たちの行動規範／コンプライアンス

レゾナックグループの考えるサステナビリティとは、「事業活動を通じたSDGs課題解決への貢献と、私たちの行動規範に基づく全社員の行動によりすべてのステークホルダーにご満足いただける社会貢献企業を目指すこと」です。

当社では、私たちの行動規範に掲げる9項目に則り、私たち一人ひとりがステークホルダーに対して何をすべきかを考え、行動しなければならないことを挙げて、各部署でディスカッションを行っています。

レゾナックグループの一員としての責任を果たし、国際社会の持続的発展に貢献していきます。



■取締役会

取締役会は、会社の基本方針を決定するとともに会社法および定款で定められた事項および重要な業務執行案件について、審議を経たうえで決定し、経営の意思決定機能の迅速化と活性化を図っています。計画的に年4回の取締役会、年1回の定時株主総会、監査役監査を実施しています。

2024年
実績

取締役会	3月8日、15日、22日、4月1日、6月20日、9月24日、12月19日
臨時取締役会	3月8日、22日、4月1日
定時株主総会	3月15日
臨時株主総会	4月1日

■監査役監査

当社監査役による監査では、職務執行状況や重要決裁書類を確認したうえで、業務及び財産状況の確認を現地で実施しています。

また、レゾナックグループ監査役による監査を毎年実施しており、工場概況、生産概況、技術・開発課題の進捗等、現地での実査を通じ、経営の健全性確保に対する提言、助言、指導を受けています。

監査役監査 2024年2月実施

全社的統制監査 2024年7月～9月実施

■環境安全監査

環境安全活動の取組みやマネジメントシステムの仕組み、運用状況を把握、評価し、継続的改善を促すことを目的にレゾナック本社から監査員が来場し環境安全監査を実施しています。

2024年度は富山工場が対象となり、事前に富山工場の各種取り組みについて書類審査を実施し、本監査では1日を掛け書類及び現場監査を実施しました。

監査結果として、安全文化の醸成のために多くの活動を取り入れ積極的に推進しているなど良い点も頂きましたが、システムへの追記すべき事項など指摘もありました。外部の目で見ることで当たり前と思っていたことがそうでないという気づきの機会となり継続的な改善でより良い工場へと繋げていきたいと思います。

■遵守評価

法規制に則った適正な現場管理と運用状況を確認するために生産活動に関わる環境・安全・化学物質管理・設備保全の法規制項目を数百の設問からなるリストを活用して評価を行っています。

この取り組みは遵守状況の確認だけではなく、施行が見込まれる法規制への計画的対策や、これに関連した教育や社内体系、社内規程の整備を行うだけではなく、新たな気づきの場としても重要な役割を果たしています。

近年は、化学物質に関する規制や作業者保護の安全対策基準が厳しくなり企業に課せられる責任も益々大きくなってきていますが、このリストを活用することで漏れの無い法令遵守を推進しています。

■事業概況労使会議

当社とレゾナック・セラミックス労働組合は、企業と個人、双方の成長を実現するための企業活動や組合員の待遇などのあり方を話し合うことを目的に事業概況労使会議を年2回開催しています。

会社からは、社長をはじめ経営幹部が出席し、経営方針、実行計画、それらに基づく経営諸施策など、企業活動の方向性について説明しています。組合からは、本部・支部役員が出席し、職場実態などをふまえて意見を述べるほか、組合員の待遇やその他必要と考えられる施策について提言を行っています。

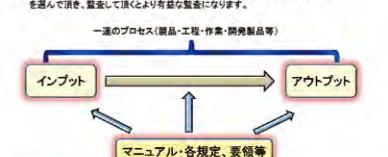
2024年度は、業務効率化やDX推進の成果と目標の共有、エンゲージメント改善のための従業員との直接的なコミュニケーションの重要性、採用説明会やPR活動の改善を通じた事業所の魅力向上などについても話し合われました。

■内部監査

2015年、当社発足を機に、監査員の技能向上と他工場の生産品や業務を学び自職場に生かすことを目的に、3工場で共通テーマにより内部監査を実施し、情報の共有とシナジー効果による活動の促進を行っています。

事前に、監査事務局が各工場で抱える課題や問題点を持ち寄って協議し、その中からテーマを選定します。同じ視点から様々な監査員による監査を実施することで特徴ある取り組みや考え方、そして新たな課題を発見する機会として活用されています。第三者機関による外部監査と異なり、監査員に任命された面々が自由な視点で専門業務とは異なる部門の監査を行うことで、品質・環境・安全・衛生の取り組みへの理解が一層深まると共に、部署間の相互理解によるコミュニケーションの活性化にも一役買っています。さらに毎年対象となる部門と監査員をローテーションすることにより多くの学びと交流の場を提供しています。

内部監査の流れ
プロセスで監査し、PDCAが回っているか確認して下さい
これからの内監査では、コミュニケーションを重視していく必要があります。
「コミュニケーションが取れていない」と思われる場合は、「品質・工程・作業・機器・製品等」についてコミュニケーションが取れていないか確認して下さい。
すべてのプロセスを監査はできませんので、「ランダムサンプリング」であるプロセスを選んで頂き、監査して頂くより有効な監査になります。





人権

人権を尊重し、個性の尊重、自由な発想、建設的な議論により、新たな価値を創造します。

- 一人ひとりが社内外で差別行為をしないことに加え、国際社会に存在する民族差別、階級差別、児童労働、強制労働、貧困問題などの人権問題の解決に向けて、サプライチェーンに働きかけるなど、人権尊重に積極的に取り組みます。
- 多様な人材が互いにその個性を尊重し、前例にとらわれず自由に発想し、建設的に議論することで、新たな価値を生む風土を目指します。



人権教育

レゾナックグループは働く全ての人たちが守り、道しるべとすべき基本ルール「私たちの行動規範」を定めており、中でも人権に配慮した事業活動を行うことは、共に働く人々を守り、共により良い社会をつくるべくビジネスパートナーやお客さま、地域社会からの信頼を得るために基本であることからステークホルダーの皆さまへのお約束として「レゾナックグループ人権方針」を策定しています。

当社がなぜ、どのように人権尊重に取り組まなければいけないのか、そしてその土台となる「レゾナックグループ人権方針」とは何かについて学習し、人権尊重の理解を深めることを目的として、全従業員を対象としたe-learningを実施しています。

また、毎年10月に人権方針を含む行動規範に関するTOPメッセージを発信するとともに、それぞれの職場ごとに私たちができることを話し合うことにより、各々が人権尊重を「自分事」ととらえ、会社の文化として根付くよう、継続的な教育を行っております。

■障がい者・高齢者の雇用促進

当社は、多様性と共生を重視し社会的責任を果たすための多様な取り組みを行い、インクルーシブな社会の実現を目指しています。

障がい者雇用においては法定雇用率の遵守だけでなく、特性に応じた適切な職場環境の整備や支援体制の構築を通じて、障がい者が持続的に能力を発揮できる環境を提供しています。

また、シニア層の長年培った専門性を活用し企業の発展に寄与いただくことが期待されており、60歳定年後の再雇用制度や柔軟な勤務形態とエイジフレンドリーな職場環境の整備によって、シニア従業員が経験や知識を活かして安心して働き続けられる仕組みを構築しています。

■メンタルヘルスケア

社会情勢の変化に伴い、労働者のストレスやメンタルヘルス不調が増加傾向にあります。当社では、従業員が安心して働けるよう心の健康をサポートする様々な取り組みを実施しています。具体的には、医療スタッフによる健康相談や職場環境の改善指導、ストレス対処法や相談窓口に関する集合研修、管理職向けのラインケア研修に加え、外部機関と連携したEAP(従業員支援プログラム)や復職支援プログラムを導入しています。多職種が連携し、今後も安心して働ける職場環境の形成に努めています。

■健康管理

「化学の力で社会を変える」というパーソンズの下、持続可能な社会への貢献を目指し、従業員と家族の健康を重視する健康経営を推進しています。オンラインでの健康セミナーを開催し、塩尻・富山・横浜の3工場で横断的に健康増進活動を展開しています。健康課題である血中脂質異常・高血圧の対策としては、ウォーキングイベントを実施しています。また、塩尻工場では松本大学(長野県松本市)と連携し、活動量計を用いた運動継続サポートを行っています。イベント参加者は増加傾向にあり、従業員の健康意識向上に繋がっています。健康経営を通じて企業価値を最大化し、誰もが健やかに活躍できる環境と豊かな未来の創造を目指しています。



■ハラスメント防止

当社ではハラスメントのない職場づくりを目指して従業員への研修や啓発活動を実施し、セクハラ、パワハラ、マタハラなど、あらゆるハラスメント行為の根絶を目指しています。

全従業員を対象としたe-learningを実施し、ハラスメントの基礎知識を学び、ハラスメントのない職場づくりの重要性と、職場でハラスメントを起こさないために何に留意すべきかを学ぶほか、経営職向けハラスメント防止研修を実施し「ハラスメント防止」の重要性を理解し、経営幹部層として考えるべきこと、講ずべき対策を学んでいます。また拠点ごとに相談窓口を設置し、被害者が安心して相談できる体制を整備しています。相談内容は秘密厳守とし、迅速で適切な対応を行うことで、従業員の信頼を得ています。

■改善提案・ヒヤリハット

改善提案は業務やプロセスの効率化や品質向上を目的に、現場や従業員からの意見や提案を集めて実施する活動です。ヒヤリハットは、事故や問題が発生する前に「危険」を察知し、災害を未然に防ぐための報告や指摘です。どちらも組織の安全性や品質を高め、リスク管理を強化するために重要な手法となり、優秀な取り組みには工場長表彰や、年間最多提案賞として表彰しています。



■場内安全巡視

様々な視点から場内の危険源をくまなく抽出するために、管理者パトロールや労使合同パトロール、テーマを限定した臨時パトロールや外部コンサルを招聘してのパトロールなど多種多様な視点でのパトロールを定期実施し、災害の未然防止に取り組んでいます。パトロールでの気付きは、直接担当者へ伝え改善を指導するとともに、データベースに挙げ広く情報を共有することで自職場での振り返りの機会を提供しています。

■安全性審査

新設案件や増設・改造・解体工事、更にはこれに伴う新たな作業や作業変更の申請を受けて、設計段階や試運転前のタイミングに関係者を集め設備や作業の安全性を審査します。

また、これらの活動が環境や品質に及ぼす影響の評価を行い、課題を明確にし適切な対応を取ることで安全な職場環境を維持しています。

■安全・衛生教育

SCP(安全対話プログラム)を取り入れた安全活動として、安全の日に労使合同による安全巡視と相互啓発型の安全文化の実現を目的とした注意ありがとう相互ツアーや取り組んでいます。ツアーや安全教育に参加し知識も経験も違うメンバーで構成されます。互いの職場を訪問し、実作業と作業指針を照らし合わせて安全に関する気づきやグッドポイントなど、互いに教えあい、改善を図っています。普段話したことのない他部署の人と会話することで、安全活動を取り入れてコミュニケーションの活性化やエンゲージメントにも貢献しています。また安全教育として、厚生労働省主催のSTOP!熱中症クールキャンペーンに協賛し各職場にWBGT計を設置して熱中症リスクの可視化や、安全教育や健康管理チェックシートを用いた熱中症対策活動を行っています。フォークリフトの安全教育として最近の事故事例を学ぶとともに、特設コースを走行しペテラン運転手とメーカー指導員による実技指導を受け安全に作業するための技能取得に努めています。工場の安全文化の醸成に貢献しています。

ステークホルダーの声 横浜工場 産業医

健康管理の課題の1つにテレワークによる業務の進捗確認の困難さ、また孤立感の深化が挙げられます。チャットツールや掲示板、ビデオ会議システムを活用してコミュニケーション不足を補うほか、上司による在宅勤務者への配慮(オンラインの会話など)を推奨します。心の健康管理面ではパソコン作業の時間が増え、心身に余裕を持ちづらい状況が顕在化しています。短時間勤務やフレックスタイム制の活用など柔軟な勤務形態を推奨することでストレス軽減の効果が期待できます。健康診断結果に基づく改善指導では受診促進が課題です。未受診者に対して、面談や所属長への情報共有等で受診を促進するようになっていますが、従業員本人の意識改革が何より重要です。健康増進活動は産業医と会社が連携し、従業員に健康への関心を持たせる取り組みを継続して活性化していくものです。自発的な受診や健康管理を推進する社内文化の醸成を大切にしながら持続可能な働き方を実現するための取り組みを継続してまいります。





労働慣行

社員一人ひとりの労働意欲を高め、誰もが働きやすい職場づくりを推進します。

- 人材育成方針を明確にして社員の能力を開発し、働きがいを持てる職場環境を整備します。
- 社員が安心して働けるよう、安全かつ健康に配慮した職場環境を構築するための取り組みを徹底します。



人材育成の取り組み

当社では、求める人材像を明確にし教育体系を順次見直しています。以下の施策により、能力開発に意欲的な企業風土をつくりています。

- STEP 01 職務に必要な知識を得るための階層別研修の充実
- STEP 02 将来を担う社員の育成を目的とした選抜研修の実施
- STEP 03 通信教育の受講や資格取得に伴う費用補助
- STEP 04 工場や事業所の枠を超えた交流活動
- STEP 05 人事諸制度の整備と透明な運用
(人事考課制度、昇格制度、賃金制度等)



■ 労働組合との協議

当社は、労働組合との協議を重要なパートナーシップと位置づけ、相互尊重と信頼に基づいた対話を通じて従業員の働きやすさと満足度向上を目指しています。特に、エンゲージメントスコア改善に、従業員の直接の意見を取り入れ、労働組合と共に課題の特定、解決策の提案を行っています。具体的には、働き方改革、福利厚生の充実、職場環境の改善などに重点的に取り組み、従業員が意欲的に働ける環境づくりを協力して実現しています。この協働的な取り組みを通じて、従業員個々の成長と組織の持続的発展を両立させることを目指しています。

■ 階層別教育

当社では、新入社員研修や昇格時研修、中堅リーダー研修など、社員のキャリアパスを想定し、各グレードにより求められる能力を身に付けるための階層別研修を実施しております。各教育実施後の受講者アンケートから研修の改善点、また内部・外部の環境変化によるニーズの変化を把握し、研修内容の見直しを行っております。特に富山工場では、現在、工場全体で教育体系の刷新を目指し、新しい階層別教育体系の企画を行っております。

■ 化学物質管理

昨今の化学物質管理に係る規制の多くは、事業者による自主的な管理を強く求める内容に移行しつつあります。これに準拠するため、本社や各工場間で四半期ごとに開催する化学物質管理委員会等を通して情報共有し連携を密に行い、国内外の法令改正による要求事項を読み解き各職場へ展開するとともに、化学物質を正しく取り扱い、作業者の健康を維持するための保護具着用の徹底や安全対策に至るまで漏れの無い一元管理を推し進めています。

■ 普通救命講習

外部講師を招き実際に起きた事例を教材に傷病者への迅速な初期手当や適切な処置方法を学びます。各班に分かれ傷病者を模したダミー人形を囲みそれぞれが通報者・措置者・補助者の役割を分担し、胸骨圧迫や人工呼吸そして工場内の複数力所に設置したAED(自動体外式除細動器)を用いて、緊急時においても正しく使用できるよう参加者全員が実践に取り組んでいます。



塩尻工場 救命講習

■ 消防設備点検

万が一火災が発生した場合に消防設備が正常に作動するように、工場に設置された消火器や消火栓、自動火災報知設備の点検を年に2回実施しています。点検は専門知識を持つ業者によって、外観による損傷等の確認や動作確認により機能の点検を行っています。また、3年に1回、消防署に点検結果の報告を行っています。

■ 緊急時処置訓練

生産活動の中で起こりうる整備異常や環境異常を各工場・部門ごとに想定して、被害を最小限に抑えるための初期対応訓練を行っています。特に、工場周辺への影響が懸念される水質や大気に関する排水異常や漏洩対策訓練は、自動遮断弁や警報装置など設備対策に加えて、人の手による土嚢投入や風向・風速の目視確認といった抜けての無い訓練を心掛けています。



■ 避難訓練(自然災害への備え)

各工場が抱える代表的な地質学上のリスクや自然災害発生を想定して、毎年11月5日の津波防災の日に場内協力企業や関係会社を含む全員参加の避難訓練を実施しています。災害の発生を知らせる構内一斉放送から開始し、トランシーバーや携帯電話等を用いた指示伝達や、部署間で連携し、いかに短時間で所定の場所へ避難できるかと安否確認に重点を置き訓練を行っています。また、災害帰宅困難者や事業継続／BCPの観点から余儀なくその場に滞留せざるを得ないケースを想定し、食糧をはじめとする避難時生活に必要な発電機や照明機器、暖房器具、簡易トイレ、毛布などの備蓄品を準備しています。更には、飲料メーカーの社会貢献活動により場内複数力所に設置された災害救援自動販売機では、災害時無償で飲料を受け取ることが出来ます。



避難場所への退避



■ 改善活動

塩尻工場 Shi-ZUKU活動

Shi-ZUKU活動は、塩尻の頭文字(Shi)と長野県の方言である、やる気・根気・気力をあらわす(ZUKU)を掛け合わせてShi-ZUKUと銘打ち活動を進めています。

全従業員が工場目標を達成するために目指す方向、目的を共有し、各課・グループごとにテーマ選定をし、メンバーが知恵を出し合い活動に取り組んでいます。年2回の報告会で得られた様々な意見やアドバイスを加えて最終発表会でその成果を披露します。

〔報告会〕2024年2月27日、29日、7月16日、30日

〔発表会〕2024年10月25日



塩尻工場 shi-zuku活動の表彰例

富山工場 きときと活動

きときと活動は、ロス・ムダの排除により、災害・故障・不良のゼロを目指し、生産効率を高めていくことを目標に、新人・ベテラン問わず一年間かけて課題に取り組みます。

日常業務の中の“こんな仕組みや取り組みがあったらいいな”を題材に改善を重ね、その成果を発表～表彰しています。我々はこの活動を人材育成の場であるとも考えており、課題に取り組むことで、専門知識や課題形成～課題解決の方法を学ぶことができます。

〔報告会〕2024年3月22日、7月25日、26日

〔発表会〕2024年12月20日、23日



富山工場 きときと活動 中間発表会

横浜工場 OASIS活動

横浜工場のOASIS活動は、2019年の取り組みが評価され、ダイバーシティCEO表彰で「優秀賞」を受賞しました。各職場では世代や性別を問わずチームを編成し、場内美化やKYトレーニング、座談会を通じて安全意識を高め、工場環境を整え、コミュニケーションを活性化しています。今後もOASIS活動に継続的に取り組むことで、従業員一人ひとりの意欲向上を図り、自主的な活動を展開していきます。



横浜工場 OASIS活動 場内緑化活動

ステークホルダーの声 塩尻工場 小松 達哉

私たちは塩尻安全文化醸成プロジェクトとして、『安全活動をもっと楽しく、もっと身近に!』『社員一人一人が安全について主体的に考える風土醸成』の目標を掲げ活動を開始しました。活動開始時は『どうせ何も変わらない』とネガティブな意見が多くありました。そこで、現場の大変さを正しく理解しコミュニケーションを取れる関係を構築しようと、全ての製造現場にて実習を実施。これにより、現場の方との距離を少しずつ縮めてきました。教育については、ユニークで気軽に視聴ができる1分程度の安全動画を制作し活用しています。動画を視聴し、気づきに対して安全担当が深堀りすることで参加者と対話を行う教育を実施しました。この取り組みは昨年1年間で安全動画を28本制作、動画による教育を104回実施し、894回の安全に関する対話を実施しました。安全を考える時間を増やすことで、意識に変化が見えてきたと感じています。



■ DIDX活動

レゾナック・セラミックスは、レゾナックグループの中でもDXのパイオニアとして2021年を機に革新的な取り組みを続けてきました。

初年度にはDIDX部の立ち上げと共に、全従業員に対してスマートフォンの貸与を開始。社内SNSを導入して迅速な情報伝達とコミュニケーションの活性化を実現しました。また、タブレット端末の活用と多くの独自アプリケーションの開発で、業務効率の向上、ペーパーレス化の促進、業務の平準化がなされ、現在も更なる改善に取り組んでおります。

今後は、システム導入やデジタルスキル向上をサポートするだけでなく、AIやデジタルツインなど新たなITツールの採用、インフラ環境の更なる拡充も継続し、引き続きレゾナックグループのDX化を牽引していきます。

DIDX活動

2026年以降 デジタルトランスフォーメーション (Digital Transformation)
組織横断/全体の業務・製造プロセスのデジタル化
“顧客起点の価値創出”のための事業やビジネスモデルの変革



2024年～2025年 デジタライゼーション (Digitalization)
個別の業務・製造プロセスのデジタル化

2021年～2023年 デジタイゼーション (アナログ→デジタル) (Digitization)
アナログ・物理データのデジタルデータ化

■ 安全対策プロジェクト

2019年に発生した災害を教訓に、再発防止に向けた取り組みの一環として、工場設備の安全対策推進と技術者育成を目的とするプロジェクトチームを結成しました。リーダーを中心に迅速かつ円滑に計画立案及び提案、進捗管理を遂行できる体制を目指し、「安全対策・生産技術に関するプロジェクト」を発足させ、安全・安定操業基盤の確立に努めています。

また、指差呼称はポカミス防止のため五感を総動員して災害を未然に防止する有効な手段ですが、この活動を改めて浸透させるため場内全ての横断歩道、操作設備、出入口に指差呼称を促す特注の標識やステッカーを貼りました。更には、ベテラン社員が全ての職場を回り過去の経験を織り交ぜた指差呼称徹底のための啓発活動を行っています。



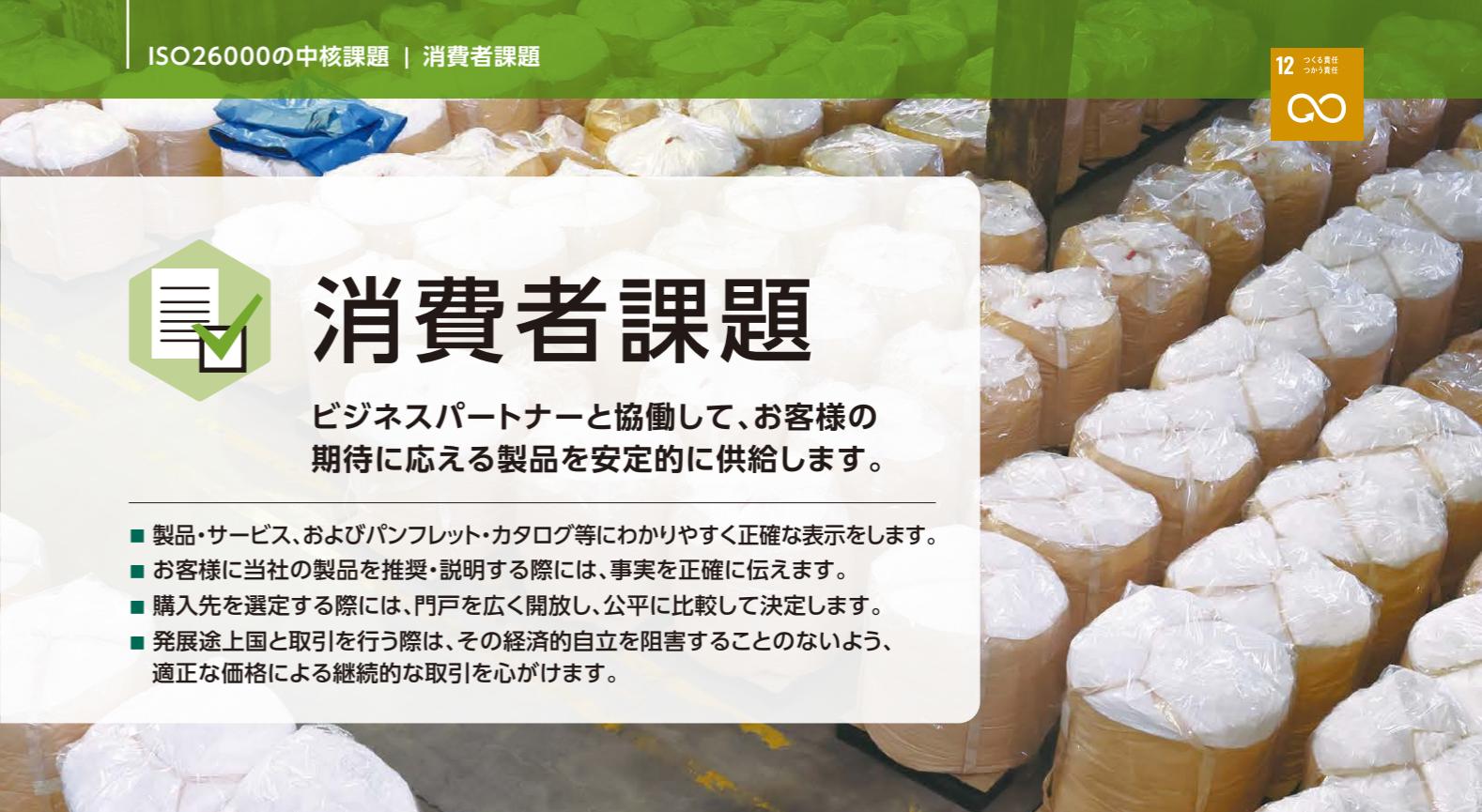
富山工場 注意ありがとう相互ツアー

■ BCP(事業継続計画)の取り組み

自然災害や発災を起点とした緊急時に備え、企業の社会的責任として、事業を停滞させないための取り組みと仕組みづくりを進めています。ここ数年は異常気象による大雨や大雪、洪水など企業の生産活動にも大きな打撃を与える未曾有の災害が頻発しており、被害想定も都度見直しを余儀なくされています。計画的に設備対策や手順書の見直しを行っています。また、災害対策本部を中心に工場間で有事を想定し衛星電話やトランシーバーを駆使した情報集約と伝達の合同訓練を行い、対策精度の向上、新たな課題の掘り起しを行っています。

■ パンデミックへの備え

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の全世界的な流行により、私たちの生活様式や危機意識に変化を余儀なくされました。当社においても、オンライン会議やテレワークの浸透など業務体系の変化や、手洗い、手指消毒の励行、日常的なマスク着用などの感染予防が習慣化されています。この新たな生活習慣のなか、令和6年に内閣府から出された“新型インフルエンザ等対策ガイドライン”や、“次の感染症危機に備え、事業者の皆様に心がけていただきたいこと”の案内を踏まえ、レゾナックグループとしての事業継続計画の枠組みに感染症によるリスクを盛り込み、感染拡大を防止するための体制づくりを進めています。今後も、企業として体制整備を進めると共に、働く仲間や地域社会と調和を図りながら不測の事態に備え万全の体制を整えていきます。



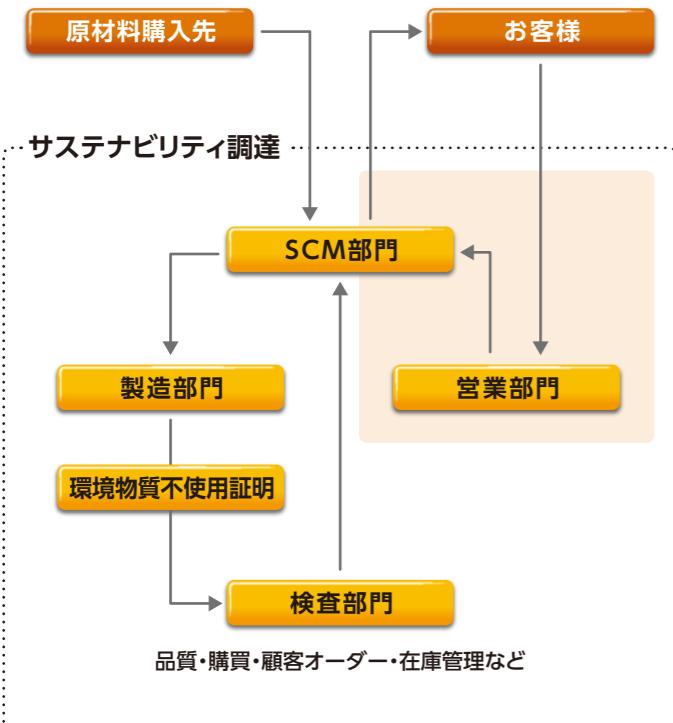
公正な事業慣行

公正かつ自由な競争を基本とした取引を行います。

- 独占禁止法を遵守し、公正な取引を行います。
 - 各国の競争法を遵守し、公正な取引を行います。
 - カルテルに参加しません。また、それを疑われるような行動をとりません。

サステナビリティ調達

サステナビリティ調達は、「レゾナックグループサステナビリティ調達ガイドライン」をパートナーの皆様と対話を通して共有し、信頼関係をさらに強固なものとすると共に、協働で遵守することで、お互いの企業価値を向上させることを目指すものです。



■サステナブル調達 (下請法※への配慮)

環境と社会に配慮したサステナブルな社会の実現を目指し、当社の使命はサプライヤーとの長期的な信頼関係を築くことによる公正・公明かつ安定的な責任ある調達活動の実現にあると考えています。2030年のありたい姿として、①グローバルに統制された管理体制・システムによりサプライチェーンが効率的・安定的かつ適切に機能していること②高い倫理観を持ち、公正・公明な仕組みの下、責任ある調達活動としてサステナブル調達の実践を掲げています。目前の課題としてサプライヤーとの協業のレベルアップに向けたコミュニケーション強化を諂ること、長期的にはグローバルガバナンスの仕組みと管理体制を確立しDXをベースとした調達・SCMの手法とシステムの高度化を目指しています。

※2026年1月1日から「下請代金支払遅延等防止法」(下請法)は、「製造委託等に係る中小受託事業者に対する代金の支払の遅延等の防止に関する法律」(略称:中小受託取引適正化法、通称:取適法)となります。

■マネジメントシステムの認証

当社では、お客さまや周辺地域の皆さま、また共に働く仲間たちと、持続可能な未来を築いていくことが企業としての責務と捉えています。国際規格であるISO9001、ISO14001、ISO45001を取得して、安心できる製品やサービスの提供、人や環境に配慮したモノづくりを行っています。

品質保証体制

当社は、実用性および安全性に配慮した製品・サービスをお客様に提供するため、法令・規制要求事項を満たした製品、さらにはお客様にご満足いただける製品を提供できる仕組みを継続的に改善しています。



■品質顧客調查

顧客の満足度や期待を把握するために実施している調査です。顧客からのフィードバックを収集し、製品やサービスの品質を評価します。得られた情報を基に改善点を特定し、品質向上に役立てています。さらには、顧客のニーズを把握し、それに応じた製品の改良やサービスの改善を行うことで、顧客満足度を向上させています。

■サプライヤー監査

サプライヤーからの安定調達を担保するために、主要原材料・梱包資材購入先、運送業務委託先、場内作業委託先、機械製作、補修、工事発注先等の実績を有するサプライヤーを再評価する取り組みを計画的かつ継続的に行っております。

評価方法としては、訪問調査、品質監査、環境安全監査、BCP監査、CSR調査・自己診断のうちいずれか又は複数の方法によって、関係部門が協力して実施しています。



環境

レスポンシブル・ケアを推進します。

■ レスponsible・Careは化学物質を取り扱う企業が自主的に環境・安全・健康に取り組む活動のことです。当社グループのサステナビリティ活動の根幹にはレスponsible・Careがあり、その実践を通じて、社会から信頼・評価される企業を目指します。



緑地管理・整備

当社は、工場立地法に基づく緑化率の準拠を徹底し、さらなる緑化の推進に取り組んでいます。工場周辺の緑地を増やすことで、生物多様性の保護と地域環境の向上を図っています。また、体育館、グラウンド、太陽光設備、桔梗ソーラーパーク（公園）などの環境施設を整備し、地域住民との交流の場を提供しています。これにより、地域社会との連携を強化し、持続可能な環境づくりに貢献しています。今後も、緑化と環境施設の活用を通じて、より良い未来を目指していきます。



■排水・排ガス管理

当社では、環境保護を最優先に考え、工場からの排水と排ガスの管理に取り組んでいます。排水と排ガスの環境の規制基準を守るために、自主基準を定めて設備の運転管理と監視を行っています。特に、公共用水域への排出は工場敷地内に降る雨水もふくめて、環境関連法令の規制の対象となります。そのため、24時間体制で監視を行い、日々のパトロールや定期的な設備点検を通じて管理を徹底しています。また、万が一の異常時にも迅速に対応できるよう、定期的に緊急対応訓練を実施し、予防と対応体制を強化しています。これらの取り組みにより、環境基準を守り、地域環境への影響を最小限に抑えながら、持続可能な社会の実現に貢献しています。



■騒音防止対策

塩尻工場・富山工場は一般住宅地と近接しており工場は昼夜・休日関係なく一年の殆どで設備が稼働しているため、周辺住民の方々の生活環境の保全と作業員の作業効率の向上や労働環境改善の観点から様々な騒音被害防止のための対策をとっています。対策は大きく分けると、騒音を発生させないための工夫と発生してしまう騒音をどのように軽減し維持管理するかであり、前者は設備設計段階での機械本体や設置場所の遮音対策、後者は発生源の特定と防音パネルやカバー・緩衝材などの騒音軽減措置が挙げられます。また、毎月工場に隣接した複数の境界域で定点観測を実施し、騒音規制値や協定値の範囲内に管理されているか確認を行っています。

ステークホルダーの声 株式会社ダイセキ 北陸事業所 営業課 藤田 健

日本を代表する‘静脈産業’企業として社会が求める環境の創造に取り組んでいます。

弊社は「限られた資源を活かして使う環境を通じ社会に貢献する環境創造企業」をパーソナリティに、主に製造業のお客様が排出する汚泥や液状廃棄物を中間処理し、リサイクル燃料やリサイクル原料に再資源化することで、環境保全と資源循環に取り組んでいます。廃棄物のリサイクル率は約9割、リサイクル燃料やリサイクル原料をお客様にご利用頂くことで天然資源の利用削減や温室効果ガスの排出量削減につなげています。レゾナック・セラミックス様の各工場から排出される多様な廃棄物の中でも弊社は特に取り扱いや処理の難しい廃試薬や薬液類を多くいただいており、どのような処理の最適解があるのか時々は相談をいただきながら長年の経験で培った技術力を活かしリサイクルの推進に微力ながら寄与させていただいている。今後も廃棄物処理を通じて、レゾナック・セラミックス様の環境保全や環境負荷低減への取り組みに貢献できるよう頑張ってまいります。



■省エネへの取組

自然循環エネルギーを有効活用するため創業と時を同じくし早くから水力発電所の建設と利用に着手し安定したエネルギー供給源の確保に努め、2013年には塩尻工場内にメガソーラー施設を誘致し周囲の景観や環境へも配慮した効率の良いエネルギー確保と利用を進めています。また、設備の導入検討段階から、できるだけ環境負荷の少ない原料の選定や製造工程、出荷に至るまでの検証を繰り返し、製造設備ばかりではなくコンプレッサー、ボイラーに至る付帯設備にもトップランナー製品や省エネ機器を優先的に導入しています。非製造部門においても、照明のLED化や省エネエアコンの導入など設備改善を図るとともに、休憩時の消灯や残業の削減など運用面でも様々な取り組みを進めています。



■廃棄物削減の取り組み

レゾナックグループは、全社を挙げ廃棄物発生量の抑制および、ゼロエミッション※の達成を目標に掲げ、外部委託業者の協力を得て3R（Reduce・Reuse・Recycle）への取り組みを進めています。また当社では、担当者が毎年委託先へ出向き、中間処理・最終処分状況を査察し、廃棄物が適正に処理・処分されていることを確認しています。

※ゼロエミッションとは：排出される廃棄物をいかに処理するかではなく、それを再利用しあらゆる廃棄物量をゼロにすることを社会全体で目指すグローバルな取り組み。資源とエネルギーをできる限り有効に使用し、環境への排出をゼロに近づけ資源循環型の社会を目指すもので、国連大学が1994年に提唱した。レゾナックグループでは「最終埋立処分量が廃棄物発生量の0.5%以下」と定義している。



■エコ事業所認定

2010年に富山県で、県内廃棄物の減量化、リサイクル推進を目的に「富山県リサイクル認定制度」が制定され、廃棄物を利用したリサイクル製品や廃棄物の減量化・リサイクルなどに積極的に取り組んでいる事業所の認定が開始されました。認定の範囲は、リサイクル製品、資源回収拠点のエコステーション、エコ事業所の3分野にわたり、富山工場はゼロエミッションの達成やアルミ缶・エコキャップの回収・寄付およびLED照明の採用等の取り組みが評価され、2013年に県内6社目のエコ事業所に認定されました。認定された事業所は、県情報誌やHPに掲載され、広く内外へその取り組みが紹介されています。

■リサイクル実例

異なる材質が一体化した複合品や、新素材・リサイクル品を多用した廃棄物は分別やリサイクルが難しくなる一方で、国内外のリサイクル意識は高まり排出者に求められる責任も年を追うごとにますます厳しくなっています。場内で発生する廃棄物は徹底した分別を経て外部処理業者の高い技術力により、その殆どがリサイクル品として生まれ変わっています。

ECO-RC碎石

アスファルト舗装の下地材になります



再生プラスチック

プラスチック製品材料として使用されます



再生塩ビ

再度成形し配管などに使用されます





■環境データ 水質データ

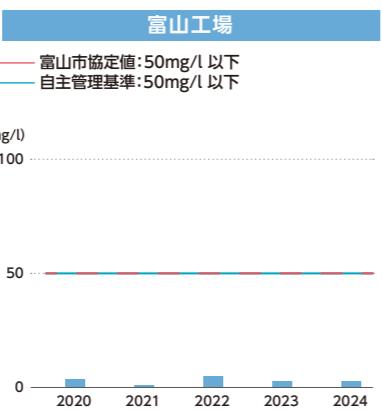
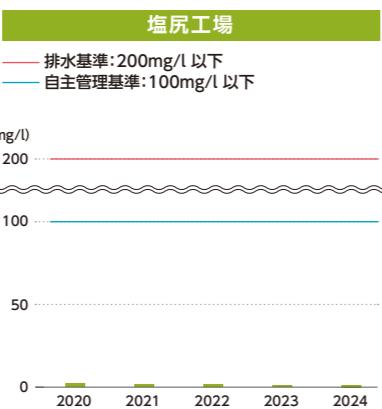
pH 水素イオン濃度指数

物質の酸性・アルカリ性の度合いを示す物理量pH1~14の範囲で示される。pH7を中心とし、より小さい値は酸性、大きければアルカリ性を示す。



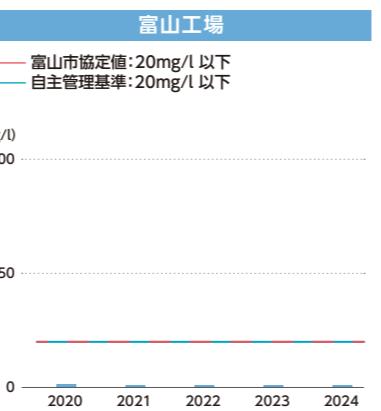
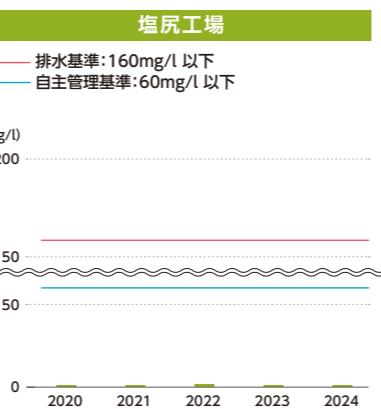
SS 水中に浮遊している物質量

水中に懸濁している直径2mm以下の不溶解性物質のこと。



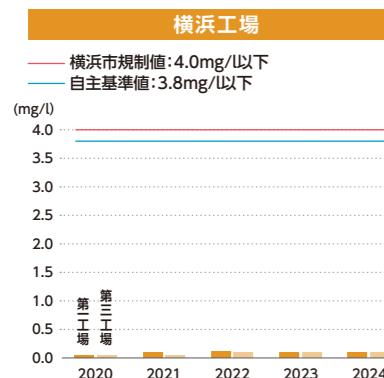
BOD 生物化学的酸素要求量

有機物が微生物によって分解される際に消費される酸素量。数値が大きいほど水中の有機物が多く汚染が著しい。



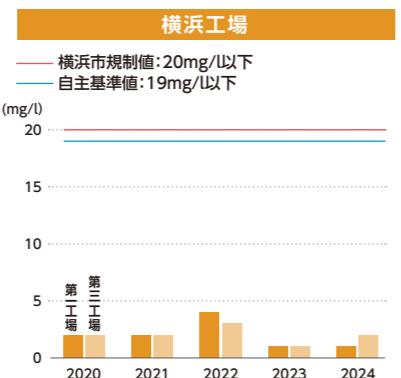
T-P 全リン

リン化合物は窒素化合物と同様に、動植物の成長に欠かせない元素であるが、水中の濃度が高くなつくると水域の富栄養化を招くことになる。



T-N 全窒素

窒素は水域の富栄養化の原因の一つであることから、栄養化のおそれのある湖沼、海域について環境基準(全窒素)、排水基準(窒素含有率)が設定されている。



COD 化学的酸素要求量

水中の有機物を酸化剤で分解する際に消費される酸化剤の量を酸素量に換算したもので、海水や湖沼の水質の有機物による汚濁状況を測る代表的な指標。



■環境負荷低減の取り組み

生産活動によって生じる環境影響負荷を最小限に抑えるための取り組みを行っています。生産に不可欠な原燃料消費とこれによって排出される温室効果ガス・廃棄物埋立て率に着目し活動を進めています。生産量に連動して変化する温室効果ガスやエネルギー使用量は原単位の削減、廃棄物は埋立率0.5%以下を目指しています。

リサイクル利用 (4,770t)
全体の 99.3%

各工場の処分量比率

塩尻工場	20%
富山工場	75%
横浜工場	5%

廃棄物処分量

各工場では廃棄物の発生量を抑えると共に、発生した資源のリサイクル利用を推進しています。また、資源ごみと一般ごみの分別を徹底し廃棄物量の削減に取り組んでいます。

廃棄物処分量
4,803t
埋立処分
32.04t 0.67%
全体の 4,803t 0.67%

温室効果ガス(GHG)

環境方針の項目に省エネルギーを重要課題として位置づけ、生産工程の見直し、運転最適化などによる省エネルギーを推進しています。温室効果ガスは燃料使用量と、他社から供給された電気・熱の使用量から算出された排出量に排出係数を掛けて算出されます。

温室効果ガス
排出量
(71t-CO₂)
前年比 +6.0%
昨年: 67t-CO₂

エネルギー使用量

効率の良いトップランナー機器やデマンド設備を採用し、燃料消費をコントロールしています。また、電力需要が減少する夜間に操業し民生用電力の需給安定化に寄与しています。

エネルギー
使用量
(148,825MWh)
前年比 +14.8%
昨年: 129,652MWh

■発電設備の紹介

工場を稼働させていくうえで電力は重要ですが、限られたエネルギーを有効活用するため、再生可能エネルギーの利用にいち早く着目し活用を進めています。

塩尻工場 赤松発電所

信濃川水系上流の梓川の水力を利用して、1950年(昭和25年)に赤松発電所の運用を開始。自社工場の電力供給だけでなく、地域の水利事業においても広く利用されています。年間発電量は一般家庭5,460世帯の年間使用量に相当します。また2013年からは、工場敷地内に東京ドームの半分ほどの面積のメガソーラー発電設備を誘致し、年間180,000kWhの発電量を得ると共に、年間844tのCO₂の削減にも大きく貢献しています。



富山工場 見座発電所

多くの電力を必要とする電解炉を用いた製造を主体としていた富山工場は、1954年(昭和29年)に電力会社を主体に民間企業11社が共同出資した発電所を神通川上流の岐阜県高山市見座・葛山の2ヶ所に建設し運用を開始しました(現在は4社の出資)。年間300,000MWhを発電し、環境にやさしい持続可能な再生可能エネルギーの有効利用拡大に努めています。



■アルミ缶リサイクル活動

2001年よりアルミ缶リサイクル活動を実施しています。工場内で購入したアルミ缶だけでなく、各家庭から出た使用済みアルミ缶の一部を工場に持ち込んで回収しています。回収したアルミ缶の収益金の一部は、地域の小中学校や社会福祉事業団へ寄付され、社会貢献活動として定着しています。毎回、子供たちや地域の方々に感謝のお言葉を頂き社員一同喜びを感じ、やりがいにつながっています。

[2024年寄付実績] 塩尻工場 塩尻市立丘中学校へ「ギタースタンド」2台寄附
富山工場 萩浦小学校へ「バスケットボール」25個寄附 横浜工場 該当なし





コミュニティへの参画 およびコミュニティの発展

共創型化学会社として立地する国・地域社会に対し
適切に情報を開示し、コミュニケーションを進め、
相互理解を深めます。

- 地域社会の一員として、率直なコミュニケーションを図ります。
- 文化・宗教・歴史・慣習など、地域の特性を理解、尊重します。
- 地域社会に的確に情報を提供し、ご理解いただくよう努めます。
- 周辺地域の安全や環境に影響を与える可能性がある事態が発生した場合は、速やかに適切なルートで情報を発信します。
- ボランティア、文化活動、レクリエーションなど、様々な活動に地域社会の一員として参加します。



■ 地域との対話

レスポンシブル・ケア(RC)活動の一環として、日本化学工業会の後援の元、地域住民・行政・各種団体の皆様と企業の相互理解を深めるための取組みを進めています。富山・高岡地区では、2000年に「第1回地域対話」を開催して以降、取組みを継続し2025年2月に第11回地域対話を高志会館で開催しました。地域対話のテーマは事前アンケートの結果を踏まえ環境保全と各社の取り組みを発表しました。参加者からも自然災害が発生した際の工場の対応や避難場所としての利用など質問を頂き各社の対応を説明しました。



■ 地域文化復興

当社は、地域の伝統行事や歴史を尊重し、地域住民と一緒に文化を再生させることで、コミュニティの絆を深め、経済の活性化にも寄与すると考えています。地域で開催される各種大会、祭りへの協賛や従業員が参加する出前授業、実験教室の開催、お祭り、行事への参加を通じて地域の持続可能な発展に貢献しています。納涼祭では地域の飲食店、特産品の販売を通じて、地元経済の活性化を図るとともに、地域の魅力を広く発信していくことにも力を入れています。このような取り組みを通じて、地域との絆をさらに強化していきます。



ステークホルダーの声 一般社団法人松商サポート 松本大学ヘルスプロモーション事業部 健康運動指導士 / 健康運動実践指導者 水野 綾子

健康経営の推進と地域連携

松本大学人間健康学部で培った研究成果や実践的なノウハウを活かし、一人ひとりの体力や目的に応じた運動メニューの作成をご提案しています。また体力・身体機能測定、運動や食事に関するアドバイスを通じ、健康的な生活習慣や、楽しく、無理なく続けていたり続ける運動習慣の継続をトータルでサポートしています。レゾナック・セラミックス様とは昨年よりご縁をいただき、体力測定をはじめ、効果的な歩き方のレクチャーや、すき間時間にできる運動のご提案などを通じ、従業員の皆様の健康意識向上を目指してまいりました。地域に根ざした活動を通して、共に新しいアイディアを生み出すような「協創」の広がりを感じていて、今後の展開がますます楽しみです。今後もレゾナック・セラミックスの皆様と共に、健康経営の推進と持続可能な社会の実現に向けて取り組んでゆきたいと思います。



■ SDGs達成への取り組み

横浜地区では、地域社会との結びつきを強める社会貢献活動として、就労継続支援施設で作られたパンを販売する取り組みを実施しています。この販売は月に一度の屋休みに行われ、施設の皆様の想いが込められた美味しいパンが並びます。地域社会との連携を促進するだけでなく、多様性を尊重し、共創の輪を広げる重要な役割を果たしています。



■ レクリエーション

同じ工場で働いていても、職場が離れていたり勤務時間が異なると顔と名前は知つても話したことの無い従業員同士でも中々お互いを知る機会がありません。円滑なコミュニケーションとアイデンティティの創出に加え、従業員の家族にも広く会社の取り組みを理解していただこうと、世代や職制の垣根を超えて楽しめる様々なレクリエーションを企画しています。ソフトバレーやマラソン大会といったスポーツレクや、いちご狩り・オーバーナイトなど皆で楽しみながら健康増進にも一翼を担う活動を進めています。また、3工場合同でのフォトコンテストやオンラインで日々の歩数を競うウォーキングキャンペーンを開催し、レゾナック・セラミックスとしての一体感を醸成する機会として好評を得ています。



■ プラスチックリサイクル活動

ペットボトルキャップの回収活動からスタートした取り組みは、梱包材や資機材、事務用品、樹脂パレット、塩ビ配管等事業活動で生じたあらゆるプラスチック製品の分別回収にまで広がり、構内で働くすべての作業者の分別リサイクル意識が高まりました。場内で回収したプラスチックは更に素材・形状別に7種類に選別し専門業者に買い取っていただき、その売却益は買取業者を経由して日本赤十字に全額寄付され人道支援活動に役立てられています。プラスチックごみの有効活用は、廃棄焼却時に発生するCO₂の削減にも役立っています。



■ 工場見学会

当社では、ステークホルダーの方に製品、安全・環境への取り組みを知ってもらうために、工場見学会を随時開催しています。お客様、地域の方々、近隣の学生、学校関係者、行政関係者等毎年多くの方に来場していただいています。さらに従業員との対話を通じて持続可能な社会の実現に向けた当社の取り組みを共有し、地域社会とのつながりを強化しています。

[2024年実績] 塩尻工場 236名

■ 出前授業

当社では、学生の将来を考えるきっかけ作りとして出前授業を実施しています。従業員が講師となり小中学校で授業を開催し、当社の事業紹介、働くことの楽しさ、やりがいを生徒の皆さんにお伝えしています。職業体験ではイベントの準備、書類整理をしたり、ラッピングや看板の制作、会場の地図作成など、自分たちでアイデアを出しながら話し合って作業、製作を体験していただいている。体験を通じて働くことに少しでも期待や希望、興味を持ち、自身の将来を考えるきっかけになることを目指しています。

[2024年実績] ■ 長野県塩尻市西部中学校2学年 ■ 長野県塩尻市広陵中学校2学年
■ 長野県塩尻市塩尻中学校2学年 ■ おもしろ科学実験in富山

■ 美化・ボランティア活動

「工場ショールーム化」のキャッチフレーズのもと、自然環境との調和、地域の景観に溶け込んだ美しい工場を目指し、工場内の緑地整備をはじめ、周辺の道路の清掃活動を日常的に実行し、自治体が開催する駅や海岸などの清掃キャンペーンにも積極的に参加しています。また地域で催されるさまざまなイベントへの参加や協賛、小学校や児童養護施設への寄付と交流を通して、地域のみなさまに親しんでもらえる工場となるための取り組みを推進しています。

富山工場 岩瀬浜海岸清掃
7月7日／14名参加

富山工場 児童養護施設ルンビニ園訪問
2月17日／14名参加

横浜工場 わが町かながわマナー違反一掃作戦
9月25日／26名参加



TO THE FUTURE

未来への取り組み

技術の進歩の結果、人々のくらしは物質的に豊かになった一方で
その代償として地球環境は危機的状況にあります。
この矛盾を解消することがこれから社会にとって最重要課題となる中で、
あらゆる産業の起点である化学こそが、それを実現できるのではないか。
どうでしょうか。

その一方で、物事を根源から変える力を持つ化学は
光をもたらすこともあれば、影を落とすこともあります。
私たちがめざすのは、何世代にもわたって地球環境と人々の幸福の両立に貢献する化学。
そのために、時代が求める技術と機能を先んじて描き、創り、化学の力を正しく活かしていく。
私たちの基盤は、川中から川下まで幅広く自在な最先端の機能材料テクノロジー。
その上で、社会課題とその原因を鋭く可視化し、解決に向けてイニシアチブを発揮していく。
そのためには、化学業界に閉じた個社の事業活動にとどまっていては足りないと考えています。

化学企業としてグローバルにおける一流の実力を備え、機敏かつ柔軟な行動と意思決定をもって、
産業のキープレイヤーから生活者に至るまで志を共にする仲間とよりよい社会を共創していく。
これが、私たちがめざす“共創型化学会社”的姿です。

化学の力で社会を変える



RESONAC

株式会社レゾナック・セラミックス